市民産業常任委員会 ～ 行政視察リポート～

所管事務調査の一環として、7月6日から8日まで、群馬県川場村及び新潟県魚沼市にて行政視察を実施しました

〈参加者〉委員長：菅原　修一　副委員長：遠藤　公彦
委　員：植村　美洋　委　員：鈴木　裕哉
委　員：根本　健一　委　員：室井　伸一

群馬県川場村

【川場田園プラザと連携した「農業+観光」施策官民連携による川場田園プラザ運営】





一般的な道の駅は、休憩所、案内所、トイレの基本施設に農産物直売所と食堂またはレストランが加わることで構成されるケースが多いが、「道の駅川場田園プラザ」は、川場村の村づくりの基本路線である「農業＋観光」の集大成と位置づけ、それぞれストーリー性を持たせた自社運営する施設の他に広場やブルーベリー園が集積しており、食の魅力・施設の魅力も相まって充実しているとともに5ヘクタールの敷地の確保ができたなどの要因が重なった結果となっています。今回の行政視察は、本市の道の駅建設の要否も含め「農業＋観光」によるまちづくりについて大変参考になりました。

新潟県魚沼市

【ブランド米の農業政策】

日本有数のブランド米で知られる「魚沼産コシヒカリ」は、これまで、県普及指導センター及びJAにおいて「量より質」を求めた指導を徹底し、肥料管理、気象変動等の情報伝達においては、新聞折り込み、回覧板等の他にメール、ライン等による発信により、技術的な指導を徹底しています。行政においては、将来の農地利用の姿や、農地集積・集約化に向けた将来設計図となる「魚沼市地域計画」を令和７年３月に策定し、地域計画の推進と実効性を確保するため、令和７年度に一つのパッケージ事業としてスタートした「魚沼市農業未来創造事業」において、営農継続支援・新規就農支援・農村集落維持支援を行っています。このように、生産者・JA・行政が一体となって魚沼産コシヒカリを生産しています。今回、魚沼市のブランド米の農業政策について学んだことを本市に反映させていきたいと思います。



市民産業常任委員会 ～ 行政視察リポート～

所管事務調査の一環として、7月29日に西白河郡矢吹町にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長：菅原　修一　副委員長：遠藤　公彦
委　員：鈴木　裕哉　委　員：根本　建一
委　員：室井　伸一

西白河郡矢吹町

【農業版企業誘致事業について】

はじめに、矢吹町農業振興課より矢吹町農業版企業誘致についての説明を受けたのち、現地にて郡山市の農業生産法人「まどか菜園」代表取締役の鈴木清美氏より、進出した経緯や野菜栽培について説明を受けました。矢吹町が農業版企業誘致に取り組むきっかけとなったのは、水不足や後継者不足による耕作放棄地増加というピンチを企業参入と大規模営農により担い手確保と農地利用を一体的に推進するというチャンスに変えた、非常に先進的な取り組みであり、本市においても耕作放棄地の増大は大きな課題であり農業振興や企業誘致を進める上で非常に参考となりました。

